

二〇二四年度 田園調布学園大学

全学部全学科専攻 共通

# 国語 入学試験問題

一般選抜（個別試験型） B日程

| 受験番号 |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|
|      |  |  |  |  |

（注意）

- 一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。
- 二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。
- 三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。
- 四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてかまいません。
- 五、試験時間は六〇分です。

| 氏名 |
|----|
|    |

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①オノマトペは最近注目されている言葉ですが、その特殊性がよく話題となります。②一般的な言葉とどこが違うのでしょうか。

一般的な言葉は、音と意味に必然的な対応関係はありません。ネコと言われたら、ニャアと鳴く、自由でマイペースな動物をイメージしますが、ネコという音とネコという動物の対応関係はたまたまであって、日本語を話す人が共通して理解できるのであれば、ネコという名前のかわりにイヌという名前でもよいわけです。

A、オノマトペの場合はそうはいきません。小さい子どもが「ニャアニャアがいる」と言えば、それはネコを指し、「ワンワンがいる」と言えば、それはイヌを指し、それが逆になることはありません。B、「ニャアニャア」「ワンワン」という名前は動物の鳴き声と結びついているからです。音と意味のあいだに必然的な結びつきがある。それが擬音語の特徴です。

C、擬音語ではどうでしょうか。擬音語ほどは音と意味のあいだに必然的な結びつきがあるわけはありませんが、Dイメージは明確に結びついています。

E、「はらはら」「ばらばら」「ばらばら」を比較してみましよう。上から降ってきてそうなのとして何が考えられますか。「はらはら」は雪、「ばらばら」は雨、「ばらばら」はあられではないでしょうか。

- ・雪がはらはら降ってきた。
- ・雨がばらばら降ってきた。
- ・あられがばらばら降ってきた。

雪は「a風花」と呼ばれるように、舞い落ちるイメージがあります。ほかに「はらはら」と舞い落ちてきそうなのは桜の花びらででしょうか。雨は降りはじめは「ばらばら」と雨粒が落ちてきて、激しくなると「ぎーぎー」となります。あられは小さい粒なら「ばらばら」かもしれませんが、大きい粒は「ばらばら」がふさわしいでしょう。もし空から小判が降ってきてても(残念ながら見たことはありませんが)「ばらばら」となりそうです。

このように、粒さえ感じられないものは「はらはら」、小さい粒は「ばらばら」、大きい粒は「ばらばら」という印象と対応します。

皮膚の痛みを表す「ひりひり」「びりびり」「びりびり」はどうでしょうか。もともと表層的で細かな感覚は「ひりひり」、ネコの爪のような鋭いもので引つかかかれると「びりびり」でしょうか。もともと奥まで届く激しい痛みは「びりびり」で、スタンガンなどで感電したときのしびれるような痛みです。「ひりひり」「びりびり」「びりびり」も痛みの激しさで異なり、この順で痛みが増していきます。

震えを表す「ふるふる」「ぶるぶる」「ぶるぶる」も考えてみましょう。「ふるふる」はもともと小刻みに揺れる震えで、皿のうねのプリンが細かく振動しているときに使えます。「ぶるぶる」は小動物が震える様子などがイメージされます。ハムスターのほっぺやインコの尾っぽは「ぶるぶる」しそうです。「ぶるぶる」は震えがもともと大きそうで、大きな動物が寒さで震えていたり、小さな動物でも命の危険にさらされて激しく震えているときには「ぶるぶる」になります。「ふるふる」「ぶるぶる」「ぶるぶる」も震えの激しさで異なり、この順で震えが大きくなります。

食べ物をこぼす様子を表す「ほろほろ」「ぼろぼろ」「ぼろぼろ」も同じ傾向が見られそうです。「ほろほろ」であれば実際に食べ物がこぼれることはなく、F様子を表しそうです。一方、「ぼろぼろ」「ぼろぼろ」は、いずれも食事をしている幼い子が食べ物をこぼす様子を表しますが、「ぼろぼろ」よりも「ぼろぼろ」のほうがこぼす様子の激しさが伝わります。

③これらは八行の子音の一例ですが、清音の八行であれば程度や大きさが小さく、半濁音の八行であれば中間で、濁音の八行であれば大きいことがわかります。音と意味に一定の対応関係があるわけです。これがオノマトペの特殊性であり、専門的には音象徴 (sound symbolism) と呼ばれます。

音と意味のあいだに結びつきがあるという音象徴性は、④オノマトペのイメージ喚起力と結びついています。漢字も文字と意味のあいだに結びつきがあり、見て意味がイメージできるという表意性(専門的には表語性といいます)がありますが、オノマトペにもそうした性格があります。

オノマトペは擬音語・擬態語の言い換えとして使われていますが、じつはそれほど単純なものではありません。浅野編(一九七八)に**トオサ**められている金田一春彦の解説「擬音語・擬態語概説」によれば、⑤オノマトペは、「擬音語」「擬声語」「擬態語」「擬容語」「擬情語」の五つに分けられます。

たしかに「擬音語」以外に「擬声語」という言い方もあります。「擬音語」は虫の羽音の「ブーン」や爆竹の破裂する「パーン」のような自然界の音を指し、「擬声語」は赤ちゃんの声の「バブー」や鶏の鳴き声の「コケコッコ」などの人や動物の声を指します。声も音の一部ですので、広い意味での「擬音語」は「擬声語」も含むのですが、「擬音語」を狭く捉え、「擬声語」と區別する方法もあるわけです。

一方、広い意味での「擬態語」は三分類されています。狭い意味での「擬態語」は「びかびか」「めらめら」のような自然界のもの様子、「擬容語」は「ふらふら」「ぐんぐん」などの生き物の様子、「擬情語」は「いらいら」「うっとり」など人の心理や感覚などの内面を描写するものです。

もちろん、この五つの分類は⑥便宜上のもので、複数の分類にまたがるものも珍しくありませんが、知っておいて損のない分類です。

オノマトペがとくに優れているのは状況のイメージ喚起力です。オノマトペは種類が豊富なので、どこで何が起きていたのか、あるいは、誰がどこで何をしていたのかといった状況がある程度特定できることが少なくありません。そのため、現場の状況を感覚的に描く描写に向けた表現であるといえます。

「ピンポン」。この言葉を見て、何をイメージするでしょうか。「誰か来たのかな?」と思っただ人は、玄関のインターホンを押した音をイメージしたのでしようし、「正解!」と思っただ人は、テレビのクイズ番組をイメージしたのかもしれない。いずれにしても、「ピンポン」一つで、その場の状況が鮮明に目に浮かびます。

次のオノマトペを見て何が思い浮かびますか。ヒントは、いずれも夏に関係あるものです。

- ・ ヒュルヒュルヒュル、ドーン、パラパラパラ
- ・ ドボーン、バチャバチャ、スーイスイ





問八 傍線部⑥「便宜上のもので」の、本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今ではできないので、一時的な分類であって
- イ 内容ではなく、形式による分類であって
- ウ 諸般の事情を考慮した分類であって
- エ 簡単には決まらず、その場しのぎの分類であって
- オ 完全ではないが、その方が都合がよい分類であって

問九 空欄G・Hに入る最も適当な表現を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 打ち上げ花火
- イ 台風の雨風
- ウ 夏祭りのお囃子
- エ プールでの水泳
- オ 遊園地のお化け屋敷

問十 本文の内容についての説明として、最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア オノマトペは一般の語とは異なる特殊な語であり、日本語の細やかな表現を描写するうえで最も重要な役割を担っている。
- イ オノマトペは状況を鮮明に表現する語ではあるが、もともと子どものためのことばで単純で深みがないという欠点がある。
- ウ オノマトペの持つ音象徴性とイメージの喚起力は幼い子どもが言葉を覚えるうえで大きな役割を果たしている。
- エ オノマトペがあるからこそ、一般の語では決して描写できない感性的な表現力で状況を正確に伝えることができる。
- オ オノマトペについて、ハ行などの音による違い、内容からの五つの分類を知っておくことが重要である。

(二) 次の文章は柳田邦男の『人生の1冊の絵本』の一節である。IとIIの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

I

こども園や幼稚園・小学校などに、絵本の読み聞かせや紙芝居をするために、時折出かける。最近も、ある地方のこども園を訪ねたら、昼の給食を食べていた子どもたちが、いっせいに私に顔を向けた。四〇個のかわいらしい顔が興味aシンシンの表情で、私に視線を向けている。①私はハツとなった。何かめずらしい動物が教室に入ってきたと言わんばかりの好奇心に満ちた目だ。私が「見る」というより、「見られている」という「眼圧」が圧倒的に強かったのだ。

人間が動物園の檻おりのなかにいるゴリラやチンパンジーを見ると、実はゴリラやチンパンジーのほうが、こちらを注意深く見ているのだと気づく人は少ないだろう。《あの子、おれを見て何を考えているのだろうか》などと、観察されているのに。

このように、「見る」「見られる」という関係には、本来双方向性がある。ところが、現代人は傲慢で、自分が自然界でいちばん優秀な存在だと思いこみ、自分以外のものを上からの目線で見えないという悪い癖に染まっている。

ただ、地球環境や大自然に対する考え方は、三〇〜四〇年前から、大きな変化が生じ始めた。地球上の森林が減るのは、人類にとって生存を危うくすることだから、特に熱帯雨林は守らなければならぬ。——そうした考え方は、生態学(エコロジー)の視点をベースにしている。しかし、生態学的な視点だけでは、「見る」「見られる」の双方向性への理解が人間の精神性を高めるうえで、なぜ重要かを説明するには十分ではないだろう。

そんなことを考えているうちに、気づいたのは、絵本の世界では、②いろいろな動物や植物を擬人化して登場させているが、そういう表現法は、動物や木などの側から人間を「見る」という視点に立つことに繋がっているのではないかということだった。そして、そういう絵本の表現法は、人間のこころの持ち方や生き方について、「あなたは自然界から見られていることに気づいていますか」と、考え直すbケイキになっている。

二冊の絵本を読んでみよう。

一冊は、いせひでこさんの『わたしの木、こころの木』だ。木や森のいのちの営みに、自らの多彩な思いを重ねて、一二編の短いA的文章と絵で構成した作品で、詩画的な香りを漂わせている。一編ずつ独立した物語になっているが、最初と最後の章だけは、東日本震災で津波によってなぎ倒され失われた、海岸沿いの松林跡の荒野で出逢った一本の背丈の大きなクロマツの倒木をモチーフにした物語になっている。

いきなり倒木のむき出しになった根が描かれている。八方に延びた根とへばりついた土。頁をめくると、見開きいっぱい、横倒しになったクロマツを真横から描いた絵が広がる。大震災から一年以上経ち、枝々の葉は枯れている。地面側に突き刺さった枝々は折れながらも、必死に大木を支えているようだ。題は「クロマツ」。

〈わたしは根です。 マツの木の根です。 正しくは根の裏側です。(中略)すこし向こうに吉

田浜の海が、 わたしや、わたしの仲間や、畑や、家や、人や、車や、船や、学校を、流し去ったことも忘れて、 深い紺青を③たたえているのでしょうか、 わたしは横になったままなので、 そのなつかしい海が見えませんか。(中略) わたしもいつか材木団地(II倒木や家の廃材の山)に行くのかしら、じっと自分の足元をみつめました〉

この倒れたクロマツは、一年後、枝々は枯れきってボロボロに折れ、横になった大木の高さぐんと低くなった。

〈その一面の枯れ草色の大地に、今日、みずみずしいひと株の菜の花が、顔を出してしました—— いろいろな花とたくさんのおぼみをつけて！ ④乾ききった目から涙がながれました空を向いてのこったわずかな手で、わたしは⑤ひとひらの青空をつかもう。折れた腕をすべて大地に沈み込ませ、わたしはわたしの新しい根になろう〉

震災に関連したモチーフによる文と絵は、右に引用した最初と最後の章だけだが、作者が木や森の世界に魂を沈潜させ、そこから見えてくるものを自在に語るといふ点で、この『詩画集』のほかの章を含めて全章に通底する水脈がある。

ほかの章は、それぞれに独立した詩的エピソードだ。

たとえば「ヤドリギ」の章では、雪山のなかを母グマと一緒に歩く子グマが、大きな木にたくさんついているヤドリギの塊を見て、母親に尋ねる。

〈かあちゃん あれなあに： とりのす？ 木のたまご？〉

子ぐまは木に登って、ヤドリギを取ろうとするが、手が届かない。あきらめて母子は立ち去っていく。子ぐまのつぶやきを残して。

〈手にはいないものって なんだかとも 大事なものに思えるね〉

木や森に愛着を抱き、たえず木や森と対話をする作者は、木や森が人間と人間社会の姿を「見る」側になってどのように見つめ、忘れてはならないことをどのように語りかけているかを、

⑥鋭い感性のアンテナで受けとめて表現しているのだ。

もう一冊、フランスの絵本作家フレデリック・マンソさんの『フランスさん、森をえがく』は、木や花や森を描くとなると、妻に頼まれたパンの買い物も忘れて夢中になってしまう画家フランスさんが主人公だ。

舞台は、花咲くマンゴーの木、赤いイチジクの木、ヤシの木、ハマベドウの木など熱帯の木々が生い茂る森だ。それらの木々をコケの生えた木の幹に座ったりして、次々に描いていく。その情景を描く作者フレデリック・マンソさんの絵は、花びらや葉や幹の皮などの細部をていねいに描きつつ、全体はデザイン風のカラフルな B のようだ。圧倒されるようなスケール感と深みがある。

フランスさんは、高さ五〇メートルにまで成長する突出した大木モアビの木を画用紙いっぱい描こうと、気球に乗って森の上からモアビの木を観察し、〈よしっ！〉と喜びの声をあげる。ところが、突然金属音が鳴り響き、森から黒い煙が激しく立ちのぼってくる。土地開発のための森焼きだ。気球は墜落し、フランスさんは失神する。

意識が戻り、目の前のあまりの惨状を見て、⑦画用紙の上に涙を落とす。すると、なんと涙がにじんで木の形になり、その上に、一本だけ生き残ったモアビの木から花の涙が降りそそいでくるではないか。花の涙はさらに地面一帯を潤し、その下から緑の若芽がどんどん伸びてきて、森を生き返らせる。そのいのちのエネルギーをもらったフランスさんは、再びモアビの木の枝に座って描き始める。

画家の森への愛着心に、モアビの木がそれを「見つめる」側から花の涙で答える。その交歓こそが、現代に求められる文明 e シュウフクの課題であることを、メタファー（隠喩）的な C で表現していると言えよう。

今、⑧絵本の世界が新しいルネッサンス期を迎えている。

二一世紀になってはや二〇年。この新しい時代に、絵本という表現ジャンルが、実に多様な人生の課題について、絶妙な解答例と言える作品を次々に生み出しているのだ。

「生まれた子どものころが発達する瞬間って、目に見えるの？」

「このころのなかの葛藤や閉塞感は、どのようなきっかけで、前向きに転じるの？」

「人種の違う人や障害のある人を差別の目で見るころを、D？」

「この世は生きるに値するところなの？」

「胎児は母親のころの状態を感じているのを知っていますか？」

「子どもの感性は、大人より鋭敏だということE？」

「ファンタジーの世界は、現実のメタファー（隠喩）なのだと思っただけですか？」

「人と動物がころのコミュニケーションをすることができますか？」

「木は人間の生涯を見つめていると思っただけですか？」

「人は人生の最期を前に、何をF？」

「亡き人の魂はどこにいますか？」

……………

このような数々の問いは、どれも哲学や宗教や精神心理学の課題だと言える。しかし、どれも日常のなかで直面する身近な問題ばかりだ。

それらの専門家だけに頼っていいのだろうか。もちろん専門家が一般読者のために書いた、人生やころに関する本はたくさんある。

だが、もうひとつ、絵本があることに気づいてほしい。絵本は文章の理解力がまだ発達していない幼い子どものために絵で言葉を補っている本だと思いきや、こんでいる人が多い。だが、違う。絵本は、子どもが読んで理解できるだけでなく、大人が自らの人生経験やころにかかえている問題を重ねつつ、じっくりと読むと、小説などとは違う独特の深い味わいがあることがわかってくるものだ。

絵本は、哲学や文学と並ぶ独自の表現ジャンルなのだと思えば、そうしたことは理解しやすくなるだろう。しかも、右に列記したような人生やいのちやころにかかわる問いかけに對して、やわらかく解答のヒントを示す作品が多彩に創作される時代になっているのだ。

問一 二重傍線部 a ~ e について、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二 傍線部③「たたえている」、⑤「ひとひらの」について、本文中の意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア そのまま保っている
- イ あふれるほどいっぱいになっている
- ウ しみじみと思い出している
- エ 素晴らしいとほめている
- オ 切々と訴えている

- ア 一面に広がる
- イ 自分一人の
- ウ 一色の
- ⑤ひとひらの

- エ わずかばかりの
- オ 晴天の

問三 傍線部①「私はハツとなった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 四〇個の子どもたちの顔がいつせいに自分に向けられ、驚いたから
- イ 子どもたちの昼食中に来てしまったことに気づき、申し訳なく思ったから
- ウ 子どもたちを「見る」のではなく、自分が「見られている」ことに思い至ったから
- エ 珍しい動物が来たという好奇の目で見られて、恥ずかしくなったから
- オ ゴリラやチンパンジーが人間の心を読むように、子どもたちに自分の心を読まれたから

問四 傍線部②「いろいろな動物や植物を擬人化して登場させている」とあるが、その技法が使われているのはどれか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 嵐の前の静けさだ。
- イ 頬をりんごのように赤らめた。
- ウ 髪に白いものが混じってきた。
- エ 立て板に水でしゃべる。
- オ 空が泣いている。

問五 空欄A～Cに入る最も適切なことばを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 細密画
- イ デッサン
- ウ 寓話
- エ メルヘン
- オ 昔話



問八 傍線部⑧「絵本の世界が新しいルネッサンス期を迎えている」とあるが、その説明として適当なものには○を、不適当なものには×を書きなさい。

ア 幼い子どものための絵本の世界にも、生態学や哲学などの問題が扱われるなど、価値観の変化が起きている。

イ 大人が自らの人生経験やこころにかかえている問題を重ねて読むことができるような絵本が生み出されてきている。

ウ いのちやこころなど多様な人生の課題について、絶妙な解答例とも言える絵本が生み出されている。

エ 人間の個性や自由を優先させる時代となり、絵や文にも創造性豊かな個性的な絵本が作られるようになった。

オ 子どものためのものだった絵本が、大人が読むにも足る独自のジャンルとして多彩に創作される時代となった。

問九 空欄D～Fに入る表現として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 理解していますか

イ 求めると思えますか

ウ 維持できるの

エ なくすのでしょうか

オ どうすれば変えられるの

問十 次に示すのは、本文を読んだ高校生が感想を述べたものである。本文の趣旨に基づいて述べているものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詩画集のような本やカラフルなデザインの本のように色々な絵本が登場してきていることに驚いたな。生き方が多様化する時代のなかで、子どもたちの好みも多様化しているから、多くのジャンルの絵本が出てくるのは素晴らしいことだね。

イ 木もクマも人間も平等に、こころに葛藤や閉塞感をもちながらも真剣に生きていることが伝わってきたわ。ヤドリギの話に出てきた、手に入らないものってとても大事なものだと思うというセリフは、昔から変わらない絵本のテーマなのじゃないかしら。

ウ 今の時代、人類は自然環境とどう付き合っていくか生態学的発想は必須になっているよね。まさかルネッサンス期を迎えた絵本がその解答になるとは思っていなかったから、エコロジーを考えるうえでも大いに学ぶことがあったな。

エ 枯れたクロマツの根の話とモアビの大木の話が印象的だったわ。うしなわれた環境のなかでどう生きるのか、特に、モアビの花と画家との交歓という発想は、人間が一方的に自然を見るといって傲慢な態度をとっていることを反省するきっかけにもなったわ。

オ 絵本は文と絵のある本だから、文字だけの小説を読むよりも一層感覚が研ぎ澄まされるのだと思う。文章の理解力が及ばない子どもも、多くの経験を積んだ大人も、人生や命や心にかかわる課題に目に見えるようにはっきりした解答を出してくれるのが絵本なんだな。

(三) 次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 前田さんは、どのようにテーマを( )。

- ア お決めにになりましたか      イ お決めになられましたか      ウ お決めされましたか  
エ お決め申し上げましたか

② 嘘( )を並べて、締め切りを延ばしてもらった。

- ア 六百      イ 七百      ウ 八百      エ 九百

③ ( )を見て森を見ずといった姿勢では、問題は解決しない。

- ア 木      イ 空      ウ 海      エ 山

④ 彼はよくほらを( )から、気を付けた方がよい。

- ア 説く      イ 吹く      ウ 言う      エ 出す

⑤ 娘が嫁ぐ朝、父はそっと目頭を( )。

- ア 摘まんだ      イ 触った      ウ 叩いた      エ 押さえた

⑥ 卒業式では、えりを( )、先生の話を聞いた。

- ア 正して      イ 立てて      ウ 開いて      エ 直して

⑦ 先ほど終わった会議の( )をまとめておいてください。

- ア レジユメ      イ パッセージ      ウ サマリー      エ ストーリー

⑧ 私との約束を忘れた彼は、( )と言いつれを続けた。

- ア あれよあれよ      イ のらりくらり      ウ ゆらりゆらり      エ だらりだらり

⑨ 彼女は何を言われても( )と聞き流す。

- ア 鹿耳春風      イ 兎耳西風      ウ 牛耳清風      エ 馬耳東風

⑩ 十二支で、七番目に来るのは( )である。

- ア 未      イ 午      ウ 丑      エ 亥